「VSS Monitoring ディストリビューション TAP」を最適な状態にチューニング、Web解析システム用データキャプチャを平準化

ベネッセコーポレーション向けにITサービスを提供するシンフォームでは、ベネッセのWebサイトへのアクセス急増に伴い、Webアクセス解析システム用データ・キャプチャ・サーバの負荷の片寄りが大きな問題になっていた。その解消のため、シンフォームでは「VSS Monitoring ディストリビューション TAP」を採用、導入ベンダーとして、NVCを選んだ。

課題
- アクセスの激増によるWeb解析システムでの一部のキャプチャーポイントへの負荷集中の解消
- スケールアウトや設計変更が容易に行える環境の実現

効果
- トラフィックはバランシングされ、データのキャプチャリングは平準化
- キャプチャポイント増でも、設計は容易になり、スケールアウトも簡単に実行
- 全体的な作業工数とコストの削減を実現

アクセス激増により、データキャプチャ用サーバの運用負荷が増大

シンフォームは国内教育、海外教育、生活、シニア・介護、語学・グローバル人材教育の5つの領域で事業を展開する、ベネッセグループのITサービス会社である。同社の基幹事業はベネッセの各事業を支えることを目的とした、ベネッセが使うITシステムの開発や運用業務だ。最近ではベネッセへの入会申し込みをインターネットから行うケースが増え、Webサイトへのアクセスが爆発的に増加している。テレビ番組や検索サイトのニュースの紹介などによる突発的なアクセス増加時も含めて、利用者が常にサイトを使えるように、Webサイトを安定的に運用することが大きな使命になっている。

「10年前と比べると、回線は10倍、Webシステム用のサーバ数は4-5倍になりました。その中で、ベネッセコーポレーション向けWebアクセス解析システムで、一部のサーバに負荷が集中して、処理量が限界近くにまでなっていました」。シンフォーム ITサービス運用部 ITインフラ運用1課 石川英治氏はWebシステムが抱えた課題をこう語る。

Webサイトのネットワーク経路は複数存在し、アクセスが集中する経路が片寄ってしまうため、データのキャプチャポイントの偏りはどうしても存在してしまう。そのため、キャプチャするサーバも一部のサーバはキャプチャのキャパシティがぎりぎりになってしまっており、運用が難しくなっていた。また「データが増えるスピードが一気に速くなりました。最初の頃は3ヶ月に1回ほどディスクをクリーニングすればよかったのですが、その内に月1回になり、2011年暮れ頃には月1回でも危ない状態になってきました。そのため、毎日、不安と緊張感の中で、仕事をするようになったのです」。シンフォーム ITサービス運用部 ITインフラ運用課 熊井真紀氏は運用担当としての苦労をこのように話す。

技術に詳しく、フットワークが軽いと判断、NVCを導入ベンダーに選定

こうした課題を解決するため、サーバのリプレースを機にシンフォームではパケットキャプチャのやり方を検討、インテリジェントTAP（Network Test Access Point）を導入することにした。インテリジェントTAPを利用することで、サーバ追加時の設計が不要になり、ミスをなくし、運用担当の負荷とコストを減らすことができる。そして、導入することにしたのが、マーケットシェア1位で、

Synform
A Benesse Company

Company Profile

名　　称　株式会社シンフォーム
所 在 地　岡山市北区高柳東町10-1
設　　立　1971年
資 本 金　9500万円
従業員数　490名（2012年3月31日現在）
事業内容　情報処理サービス分野における
アウトソーシング、データセンター事業

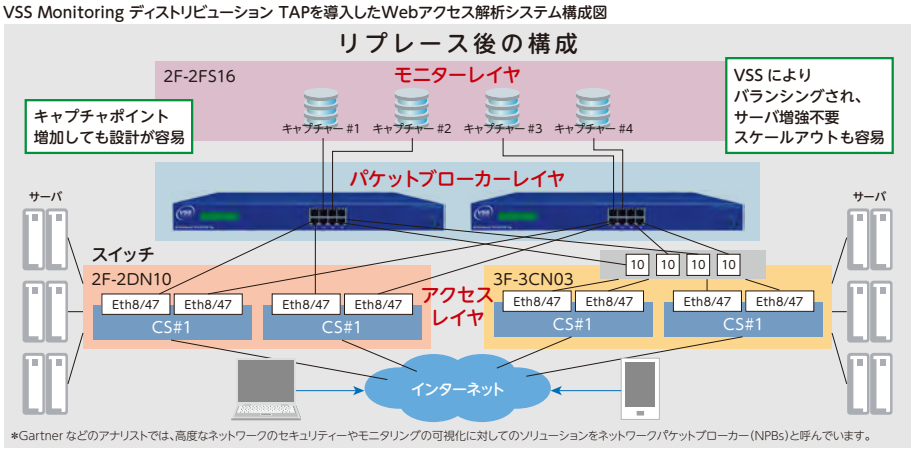
株式会社シンフォーム
ITサービス運用部 ITインフラ運用1課
石川 英治 氏

株式会社シンフォーム
ITサービス運用部 ITインフラ運用1課
熊井 真紀 氏

［ V8C-F-AF ］

8ポート ディストリビューション TAP

VSS Monitoring ディストリビューション TAPを導入したWebアクセス解析システム構成図



信頼性が高い「VSS Monitoring ディストリビューション TAP」【V8C-F-AF】である。

「最大の問題はどこから導入するかということでした。導入期間も限られているため、技術に詳しく、質問すると、すぐに返事が返ってくるフットワークの軽い会社を選ぼうと考えました。そうした中で、検討に上がったのがネットワークバリューコンポーネンツ（NVC）でした。NVCは以前から、展示会等で社員の方と話したことがあり、技術に詳しく、深い部分までやり取りできるという印象を持っていました。そこで、NVCから導入することに決めたのです」（石川氏）。

導入するWeb解析システムは、リアルタイムでデータを収集・解析するため、大量のデータを安定的に流して、リアルタイムでキャプチャできように、VSSをチューニングする必要がある。「導入までの期間が非常に短かったのですが、解析ニーズを伝えて、NVCから適切な提案を受けることができました。実際の解析に使うデータをきちんとキャプチャし、余分なデータは取らずに済むように、こちらが考えるベストな内容にしてくれました」（石川氏）。

トラフィック平準化による安定運用で、作業工数とコストの削減を実現

加えて、導入初日もNVCのエンジニアが同席して、データの状況を見て話ながら、最終的なチューニングを行い、最適な状態を作り出していった。「NVCのエンジニアと一緒に画面を見て、やりとりしながら作業をすることで、ベストな設定にすることができました。その中で、今後も何かあった時にも相談しながら、運用していける信頼関係ができました」（熊井氏）。

こうして、6月末の稼働以来、トラフィックはVSSによってバランシングされ、非常に安定して運用されている（図）。その結果、トラフィックはVSSで平準化され、サーバ台数を増やさずサーバ間のキャパシティも余裕を出す事ができ目標は完全に達成することができた。「現場で対話できるエンジニアの存在は大変重要で、何かあった時に、『持ち帰って、検討します』ではなく、その場で具体的な提案をしてくれることが必要です。NVCはそれを確実に実行してくれる狙い通りの会社でした」（石川氏）。

ベネッセの事業拡大に伴い、システムの規模は飛躍的に拡大している。その中で、シンフォームではクラウド化を含めて、運用の自動化を進め、運用工数とコストの削減に取り組んでいる。今回VSSを導入することで、キャプチャポイントが増加しても、容易に設計でき、スケールアウトも簡単に行えるようになった。シンフォームではこの成果を生かして、今後もより価値の高いITサービスを提供していく考えだ。

製造元

VSS monitoring

お問い合わせ先

NVC NETWORK VALUE COMPONENTS

株式会社ネットワークバリューコンポネンツ

〒144-0035 東京都大田区南蒲田2-16-2 ｜ TEL:03-5714-2050 ｜ http://www.nvc.co.jp